

ローマ 6 黙想質問

毎日、神の御言葉に触れる時、次の質問に答えましょう。これらの質問は、聖書の学びを通してイエスの弟子として成長することに集中するのに役立ちます：

- A. イエスから何を学びましたか。イエスは、私に何を語っていますか。
- B. 今日、私はどのようにイエスに従いますか。
- C. この学びを通して、私はどのようにイエスのようになれるか。

ローマ 6:1-4

キリストと一つになる - Part I

私たちはキリストにあって死んだ者です。

1 それでは、どういうことになりますか。恵みが増し加わるために、私たちは罪の中にとどまるべきでしょうか。2 絶対にそんなことはありません。罪に対して死んだ私たちが、どうして、なおもその中に生きていられるでしょう。

黙想質問：もし神の恵みが私たちの罪を通して現れるのであれば、もっと罪を犯して、神の恵みがより多く現れるようにしてはどうでしょうか。

3 それとも、あなたがたは知らないのですか。キリスト・イエスにつくバプテスマを受けた私たちはみな、その死にあずかるバプテスマを受けたわけではありませんか。4 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです。

黙想質問：キリストの死にバプテスマを受けるとはどういう意味でしょうか。新しいいのちのうちを歩むとはどういう意味でしょうか。

ローマ 6:5-7

キリストと一つになる - Part II

私たちはキリストにあって死んでいるし、また生きています。

5 もし私たちが、キリストにつき合わされて、キリストの死と同じようになっているのなら、必ずキリストの復活とも同じようになるからです。6 私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減びて、私たちがもはやこれからは罪の奴隷でなくなるためであることを、私たちは知っています。7 死んでしまった者は、罪から解放されているのです。

黙想質問：私たちはどのようにしてイエスの死と一つにされたのでしょうか。イエスの復活と一つにされるということは、どのような意味を持つのでしょうか。

ローマ 6 黙想質問

黙想質問：私たちがイエスと共に十字架につけられることによって、罪の性質はどのようにして無力化され、もはや罪の奴隷ではなくなるのでしょうか。言い換えれば、なぜ罪の性質はもはや私たちを支配しなくなるのでしょうか。

ローマ 6:8-14

キリストと一つになる - Part III

どのようにすれば、キリストにあって死んでいながらも
生きている者となれるでしょうか。

8 もし私たちがキリストとともに死んだのであれば、キリストとともに生きることにもなる、と信じます。9 キリストは死者の中からよみがえって、もはや死ぬことはなく、死はもはやキリストを支配しないことを、私たちは知っています。10 なぜなら、キリストが死なれたのは、ただ一度罪に対して死なれたのであり、キリストが生きておられるのは、神に対して生きておられるのだからです。

黙想質問：「キリストと共に死んだ者として、キリストと共に生きる」ことは具体的にどう言う意味でしょうか。

11 このように、あなたがたも、自分は罪に対しては死んだ者であり、神に対してはキリスト・イエスにあって生きた者だと、思いなさい。

黙想質問：「罪に対しては死んだ者で見なし、キリスト・イエスにあって神に対しては生きている者で見なす」とは、どういうことでしょうか。

ローマ 6 黙想質問

12 ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪の支配にゆだねて、その情欲に従ってはいけません。13 また、あなたがたの手足を不義の器として罪にささげてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者として、あなたがた自身とその手足を義の器として神にささげなさい。14 というのは、罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるからです。

黙想質問：12 節の「ですから」とはどういう意味でしょうか。

黙想質問：12 節から 14 節の内容を、自分の言葉で要約してください。

黙想質問：14 節の「罪はあなたがたを支配することがないからです。なぜなら、あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にあるからです」とは、どのような意味でしょうか。

ローマ 6:15-23

キリストと一つになる - Part IV

私たちは罪の奴隷なのではなく、義の奴隷です。

15 それではどうなのでしょう。私たちは、律法の下ではなく、恵みの下にあるのだから罪を犯そう、ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。16 あなたがたはこのことを知らないのですか。あなたがたが自分の身をささげて奴隷として服従すれば、その服従する相手の奴隷であって、あるいは罪の奴隷となって死に至り、あるいは従順の奴隷となって義に至るのです。17 神に感謝すべきことには、あなたがたは、もとは罪の奴隷でしたが、伝えられた教えの規準に心から服従し、18 罪から解放されて、義の奴隷となったのです。

黙想質問：私たちは、律法の下ではなく、恵みの下にあるので、罪を犯してもいいのでしょうか。答えを説明してください。

ローマ 6 黙想質問

黙想質問：「あなたは罪から解放され、義の奴隷となりました。」という18節を説明してください。

19 あなたがたにある肉の弱さのために、私は人間的な言い方をしています。あなたがたは、以前は自分の手足を汚れと不法の奴隷としてささげて、不法に進みましたが、今は、その手足を義の奴隷としてささげて、聖潔に進みなさい。20 罪の奴隷であった時は、あなたがたは義については、自由にふるまっていました。21 その当時、今ではあなたがたが恥じているそのようなものから、何か良い実を得たでしょうか。それらのものの行き着く所は死です。22 しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。

黙想質問：「義に歩むこと」において、私たちの役割は何でしょうか。

黙想質問：私たちが罪の奴隷であった時に結んだ実の例を挙げてください。義の奴隷であることの実は何でしょうか。

23 罪から来る報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

黙想質問：23節を、お友達に話すように説明して下さい。